

令和7年 12月23日

保護者の皆様へ

人間環境大学附属岡崎高等学校

校長 横山 博文

校長便り（花便り） 第12号

冬至の候、保護者の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じ上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

先日、ご縁のある保護者の方から、ご自宅で収穫されたという柚子を頂戴しました。そのうちの一つを校長室の机に置いているため、机上のパソコンに向かう私の鼻腔は、あのゆず独特の甘酸っぱい香りに満たされた状態で仕事ができるという、贅沢を味合わさせて頂いております。本日は冬至、自宅に持ち帰ったうちの一つは柚子湯としていただきます。心温まる頂き物、本当にありがとうございました。

「山茶花」と書いて「さざんか」と読むということを知ったのは、確か高校生の頃だったと思いますが、身近な花なのにこんな難しい読み方をする漢字が充てられていることに、衝撃を受けた記憶があります。初冬を彩る山茶花を見るたびに、童謡「おちばたき」の2番の歌詞にも出てくるあのフレーズ、「さざんか さざんか さいたみち たきびだ だきびだ おちばたき」の曲と共に、今では焚火ひとつ簡単にはできなくなった寂しさや、子供の頃に当たり前のようにできていたしもやけも、今の多くの子供たちには縁がなくなった冬の風物詩なのだろうと思うと、貧しかったけれど温かかった時代のこと、日本人の心の奥にあった故郷の情景もどんどん変わっていくのだろうと思うと、少しばかりいたたまれない気持ちになってしまいます。

さて、本校は、本日、2学期の終業式を迎えました。以下は、本日私からの終業式での式辞の一部抜粋です。

「一年の計は元旦にあり」という諺は、生徒の皆さん世代にとってはなじみの薄い諺になってしまったかもしれませんが、計画を立てることがいかに大切かを考える意味では、今でも意味のある諺だと思います。今が一年を終えるという節目の時期ですから、その計画を立てることの大切さを今一度考えてもらいたいと思います。計画という言葉は、言い方を変えると、「目標を立ててその目標にたどり着くための逆算の作業」と言えるかもしれません。つまり、目標、ゴールを立てた後は、それを目指していつから何を始めて、いつまでに何をどれだけすればよいかを考える、それらをイメージする作業ともいえます。イメージをする中で、確実にゴールにたどり着くためには、不測の事態や想定外を可能な限り無くし、緻密な予測が必要です。それらをイメージするために、幅広い視野や豊富な知識が必要なのであり、それらを身に着けるために、日々の学習があるのです。何のために勉強をするのか、今やっている勉強が何の役

に立つのか、という問いに対する一つの答えだと思います。年末年始、家族と過ごす時間も計画を立てて良い時間を過ごすよう、意識してください。

今日の冬至を境に約一週間後からは、自然界は春の準備に入ります。地球という太陽系の惑星の丁度日本くらいの緯度に生きる私たちは、この夏至と冬至、春分と秋分という4つの区切りの中で、1年を生きていきます。それは人も動物も植物も、それこそ生きとし生きる命全てが、その流れの中にあります。その流れる時間の全てがいとおいと感じることが増えてきたのは、人生が時間という制約とともにあるということを、思い知らされる年齢になったからかもしれません。一年一年を、一日一日を大切に生きていきたいものです。

保護者の皆様におかれましては、この一年の子育てにご苦労頂き、ありがとうございました。今から迎えるクリスマスやお正月を、ご家族皆様で楽しく迎えられることを心より願って、年末のご挨拶とさせていただきます。よいお年をお迎えください。